



Title	メディアが伝えない！新型タバコのリスク
Author(s)	田淵, 貴大
Citation	大阪公衆衛生. 2020, 91, p. 14-14
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/78697
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

特集

だれひとり取り残さない社会を創ろう（2）

メディアが伝えない！新型タバコのリスク

田淵 貴大

大阪国際がんセンターがん対策センター疫学統計部副部長

「新型タバコ時代到来！」加熱式タバコや電子タバコといった新型タバコが登場し、日本では、アイコス（IQOS）やグロー（glo）ブルームテック（Ploom TECH）といった加熱式タバコが急速に普及してきている。加熱式タバコは、従来の紙巻きタバコのようにタバコ葉に直接火をつけるのではなく、タバコ葉に熱を加えてニコチン等を含んだエアロゾルを発生させる方式の新型タバコである。

加熱式タバコの中でもアイコスが最も普及している。2016年10月時点で、アイコスの販売世界シェアの98%を日本が占め、最近でも日本が80%以上を占めるとされる。すなわち、世界の中で日本がアイコスの実験場となっているのである。

新型タバコ（加熱式タバコ及び電子タバコ）から発生するエアロゾルは、単なる水蒸気ではない。加熱式タバコを使用した場合のニコチン摂取量は、従来の紙巻タバコと比べほぼ同等かやや少ない程度であり、一部の発がん性物質は紙巻タバコと比較すれば十分の一程度と少ないものの、グリセロール等が大幅に増えており、タール総量はほとんど減っていない。紙面の都合で詳細について書けないが、情報を総合すれば、加熱式タバコを吸っている人のリスクは、紙巻タバコよりも低いとは言えない、と考えられる。米国の専門家9人の委員のうち、8人（1人は棄権）が「紙巻きタバコからアイコスに切り替えても、タバコ関連疾

患リスクを減らせない」と回答している。

我々は「変えることができる要因」を改善していくことに注力する必要があり、禁煙支援に取り組むことが求められている。

国際がん研究機関（IARC）は、科学的根拠に基づき、「タバコの煙」自体を有害物質（発がん性物質）だと判定している。ここで重要になる予防の観点は、途中のメカニズムがどうであろうと、とにかくタバコの煙を吸うことを防ぐことができれば、病気を防げるということである。新型タバコからも同様に「タバコの煙」が出ていると分かっている。予防すべき対象は、新型タバコも含めた、すべての「タバコの煙」だと考えられる。

新型タバコ時代の禁煙とは、新型タバコも含めてタバコをすべて止め続けることである。「禁煙し続けてもらう」のは大変なことであり、我々は禁煙支援・禁煙指導を継続的に繰り返し実施していく必要がある。（参考書籍）

「新型タバコの
本当のリスク」
内外出版社 2019年

